

2019年 8月

北星学園大学・北星学園大学短期大学部

2021年度以降の入学者選抜方法について

本学では現在、高大接続改革の意義を踏まえ、入学者選抜において学力の3要素をより多面的・総合的に評価できる選抜方式へと改善するために検討を進めております。この度、2019年4月に公表しました方針に基づき、2021年度入試（2020年度実施）以降に実施する「入学者選抜方法の概要」がまとまりましたので、以下の通り告知いたします。

I. 入試区分の変更

2020年度入試(2019年度実施)		2021年度入試(2020年度実施)
一般入試	⇒	一般選抜
大学入試センター試験利用入試		大学入学共通テスト利用選抜
【大 学】公募推薦入試 【短期大学部】自己推薦入試		総合型選抜
指定校推薦入試		学校推薦型選抜
特別入試		特別選抜

II. 一般選抜の変更点

1. 英語4技能の評価のための外部検定試験利用について（全学科共通：生活創造学科を除く）。

- ▶ 出願時の提出書類として、大学入試英語成績提供システムへの参加が認められており、かつ4技能が評価される検定試験のうち、いずれか一つの成績証明書の提出を求めます。
- ▶ ただし、現在の外部認定試験の実施状況および高等学校等における利用状況等を鑑み、2021年度以降の入試における外部試験の利用は次の通りとします。
 - * 各試験のスコアは、受験の前年度以降(現役生であれば高校2年生以降)に受験したすべてのものを有効とします。
 - * 出願時に提出する成績証明書のスコアは問いません。
 - * GTECのアセスメント受験で発行される SCORE REPORT および TOEIC による出願も認めます。ただし、その場合は後記の加点の対象にはなりません。
 - * スコアが一定の基準に達している場合、文部科学省が示す『各資格・検定試験と CEFR との対照表』に準拠し、CEFR の段階（以下、CEFR）に応じて英語の得点に加点を行います。加点の方式は次の通りです。

1. 加点の方法

- ◇ 英語の得点は、当日実施した英語の試験の得点（当日点）に CEFR の段階に応じて与えられる点数（加算基準点）を加えた上で、以下の計算式により算出します。ただし、文学部英文学科は計算式によらず、独自の基準により加点を実施します。

$$\text{(当日点+加点基準点)} \div \text{(英語満点+加点基準点)} \times \text{英語満点} = \text{得点}$$

なお、小数点以下は、繰上げにより整数化します。

◇ 加点方法および加点基準点は、学科により異なります。詳細は次の通りです。

2. 加点の方法と基準

文学部英文学科	CEFR の段階に応じて次の通り加点します(上記の計算式は用いない)。 B1 以下：0 点、B2：3 点、C1 以上：5 点
短期大学部英文学科	以下の「加点基準点」により、 <u>上記の計算式</u> を用いて加点します。 A2 以下：0 点、B1：30 点、B2：50 点、C1 以上100 点
上記以外の学科	以下の「加点基準点」により、 <u>上記の計算式</u> を用いて加点します。 A1 以下：0 点、A2：10 点、B1：20 点、B2：50 点、 C1 以上：当日の英語試験を免除し、得点を100 点とする。

* 2023 年度以降の入試においては、今後の英語外部認定試験の実施状況等を踏まえて検討のうえ変更する可能性があります。

* 英検の場合、CEFR レベルの読み替えは、「級」ではなく「CSE スコア」を活用します

【参考：上記の計算式を用いた、試験当日の得点に対する加点の目安（英文学科以外の学科）】

CEFR \ 当日点	20	30	40	50	60	70	80	90
A2	+8	+7	+6	+5	+4	+3	+2	+1
B1	+15	+12	+10	+9	+7	+5	+4	+2
B2	+30	+27	+20	+17	+14	+10	+7	+4

※ CEFR A2 のスコアを提出した受験者が、当日の試験で 60 点だった場合は 4 点の加点。

2. 「主体性等」の評価について

- インターネット出願時に、これまでに主体的に取り組んだ学びや活動などについて、200 字程度で記入することを求めます。また、記入の内容は、得点化することにより合否判定に利用します。大学は全学部で 5 点満点、短期大学部は 3 点満点とし、一般選抜試験の得点に加算します。
- 記入する内容および文字数などについては、2021 年度入学試験要項でご確認ください。
- 「調査書」の評価(得点化)については、2021 年度入学試験では実施しません。
- Japan e-Portfolio は利用しません。

3. 試験科目および配点について

- 2020 年度入試(2019 年度実施)からの変更はありません。

III. 共通テスト利用選抜の変更点

1. 英語 4 技能の評価のための外部検定試験利用について

- 出願時の提出書類として、大学入試英語成績提供システムへの参加が認められており、かつ 4 技能が評価される検定試験のうち、いずれか一つの成績証明書の提出を求めます。
- ただし、現在の外部認定試験の実施状況および高等学校等における利用状況等を鑑み、2021 年度入試における外部試験の利用は次の通りとします。
 - * 出願時に提出する成績証明書のスコアは問いません。
 - * 受験の前年度以降(現役生であれば高校 2 年生以降)に受験したすべてのスコアを有効とします。
 - * GTEC のアセスメント受験で発行される SCORE REPORT および TOEIC のスコアを有効とします。
 - * 2023 年度以降の入試においては、今後の英語外部認定試験の実施状況等を踏まえて、検討のうえ変更する可能性があります。

2. 国語および数学の記述式問題の取扱いについて

- 国語の記述式問題の段階別成績評価については、活用する方向で検討中です。
- 数学の記述式問題は、従来のマークシート方式と同様に取扱います。

3. 試験科目および配点について

- 英語のリーディングおよびリスニングの配点については、変更の可能性があります。
- 「主体性等」の評価を行います。(以下、「4. 「主体性等」の評価について」参照)。
- 上記以外の点については、2020 年度入試からの変更はありません。

4. 「主体性等」の評価について

- インターネット出願時に、これまで主体的に取り組んだ学びや活動などについて、200 字程度で記入することを求めます。記入の内容は、得点化することにより合否判定に利用します。大学は全学部学科で 10 点満点、短期大学部は 5 点満点とし、共通テストの得点に加算します。
- 記入する内容および文字数などについては、2021 年度入学試験要項で改めてご確認ください。
- 「調査書」の評価(得点化)については、2021 年度入学試験では実施しません。
- Japan e-Portfolio は利用しません。

IV. 総合型選抜

1. 総合型選抜の導入について

- 2021 年度入試から、大学の全学部および短期大学部で総合型選抜を新たに実施します。なお、これに伴い、大学の公募推薦入学試験の実施を 2020 年度入試で取止めます。

2. 選抜方法および試験実施日等について

- 1 次試験(書類)、2 次試験(各学科が指定する学力試験および面接)により選抜します。

- 出願締切は10月上旬、1次試験の可否発表は10月中旬、2次試験の実施は10月下旬、2次試験可否発表は11月中旬を予定しています。
- 2次試験の内容は、受験する学科によって異なります。それぞれの学科において、〈小論文〉、〈指定した文献についての記述式試験〉、〈プレゼンテーション試験〉、〈講義の受講後にその内容を問う学力試験〉、〈事前レポートの内容を問う口頭試問〉、〈英語4技能試験〉、〈面接試験〉などを実施する予定です。2次試験の詳細については、2021年度入学試験要項でご確認ください。

3. 出願資格および提出書類等について

- 本試験に合格した場合、本学に入学することを出願の条件とします。また、本学が指定する入学前教育に積極的に取り組むことも同様とします。
- 文学部英文学科は、CEFRがB1以上であることを出願資格とします。
- 提出書類として、「学修計画書」(様式指定)の提出を求めます。
- 事前レポートの提出を求めます(テーマは学科ごとに指定)。
- 評定平均値(学習成績の状況)は、出願基準としては利用しません。

4. 自己推薦入試(短期大学部)について

- 短期大学部の自己推薦入試は、継続して実施します。
- 出願期間は11月中旬、試験日は11月下旬、合格発表は12月上旬を予定しています。
- 試験内容は以下の通りです。

短期大学部	
英文学科	① 口頭試問 (英語) ② 個人面接 (日本語)
生活創造学科	① 小論文 (800字程度) ② 個人面接

V. 学校推薦型選抜(指定校推薦入試)の変更点

試験方法について

学力の3要素を多面的・総合的に評価する観点から、従来より実施している「面接試験」に加えて次に掲げる学力試験のうちから1つまたは2つの試験を実施します。試験の内容は、受験する学科によって異なります。詳細については、2021年度入学試験要項でご確認ください。

- ① 口頭試問試験
- ② 小論文試験
- ③ 英語4技能試験